

ABEL.

ミラノデザインウィーク2024にて 新プロジェクト<ABEL BLACK>を発表

Some Thoughts on Blackness

Collaboration with : Fleur van Dodewaard、Teruhiro Yanagihara Studio

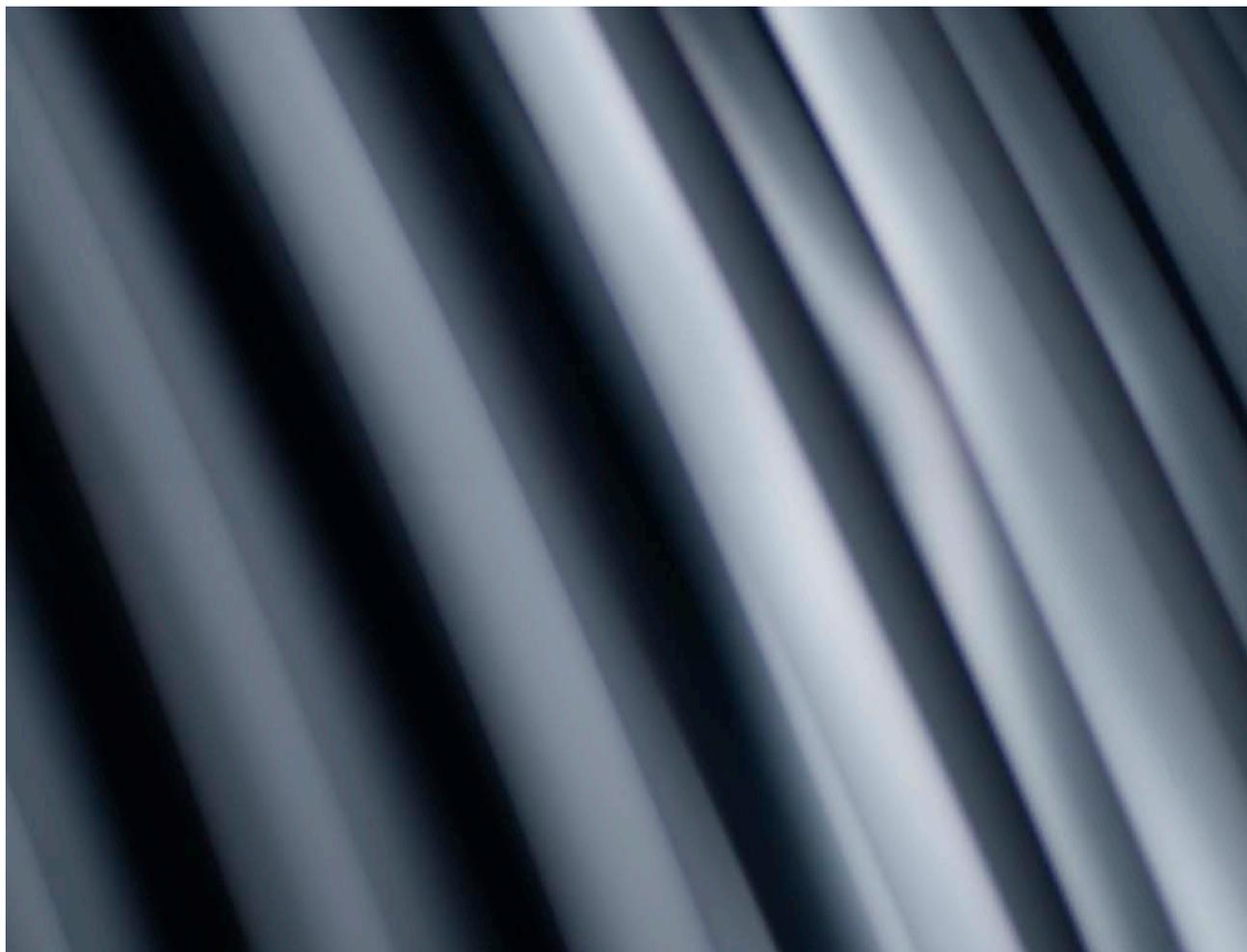


Photo : Yuichiro Noda

塗装ともメッキとも違う、基材のステンレスそのものが黒く発色する唯一無二の技術を誇る日本の表面処理加工の専門企業、アベル株式会社は、2024年4月、黒いステンレス=ABEL BLACKの名を冠した<ABEL BLACK>というプロジェクトを始動します。そして、「Some Thoughts on Blackness (黒を巡る思想)」のタイトルのもと、プロジェクトを初お披露します。

ときに重厚で力強く、ときに高貴さと静謐さを兼ね備えた、神秘的な存在感を示す黒。

今回発表するプロジェクトでは、オランダのアーティスト Fleur van Dodewaard (フラー・ファン・ドワード) と、日本のデザイナー 柳原照弘率いる Teruhiro Yanagihara Studio と協働しました。まだ見ぬ黒の可能性を見出すべく、アートとデザインの両軸から黒という存在を考察。黒いステンレス=ABEL BLACKの表現の限界と可能性に挑戦した新たなプロジェクトに、ぜひご期待ください。

開催概要

【プロジェクト名】 ABEL BLACK (アベル ブラック)

【展示タイトル】 Some Thoughts on Blackness (英語タイトル)
黒を巡る思想 (日本語タイトル)

【会期】 2024年4月16日 (火) ~21日 (日) 10:00 – 18:00

【会場】 Secci Milano (<majotae 9490> 展示会場内)
Via Olmetto 1, 20123 Milano <https://goo.gl/maps/XchdKU9M9ohHqCye8>

【Press Preview】 4月15日 (月) 11:00 – 17:00

4月15日 (月) 17:30-20:00には、同会場で展示される<majotae 9490>のレセプションが開催されます。

ABEL BLACKの作品もご覧いただけますのでどうぞお気軽にご参加ください。

Website : abelblack.com

Instagram : @abelblack_project (https://www.instagram.com/abelblack_project/)

Production : アベル株式会社 / ABEL Co.,Ltd

Creative Direction and Art Direction : Teruhiro Yanagihara Studio

Collaboration Designer : Teruhiro Yanagihara Studio

Collaboration Artist : Fleur van Dodewaard (フラー・ファン・ドワード)

Photo : Yuichiro Noda、Ichiro Mishima

Text : Hisashi Ikai

「黒」と聞いて想像するものはなんだろう。夜、闇、宇宙、影。どれも輪郭がはっきりとしない不明瞭な存在だが、人智では計り知れない、未知の領域を持ったものばかりだ。

一方、色としての「黒」はどうだろう。黒は、赤や青、緑のような彩度や色相をもたない無彩色であるため、明確に「どんな色か」を言い表すのは難しい、とても曖昧な色だ。

では黒には何の実体もないのかといたら、そうではない。たとえばあなたが今立っている部屋が、まったく光の入らない暗黒の世界になったことを想像してみしてほしい。

真っ暗のなかでは、壁や天井などの仕切りが見えず、空間はどこまでも果てなく広がり続ける。暗黒を見つめ続けると、その先に吸い込まれてしまうような感覚にさえ包まれるだろう。さらに身の回りにあるすべてのものも闇のなかに溶け込んで見えなくなり、しまいには自分の身体さえもが消え去ってしまう。

黒は、無限への入り口であり、消失の象徴でもある。

一方で、真っ暗な世界にわずかばかりの光が加わると、もののシルエットやディテールはぐっと浮かび上がってくる。黒は、単に視覚が捉える色彩情報にはとどまらず、光と呼応しながら、意識下に静かに入り込み、感覚を直接刺激するエネルギー体として思考を巡らし続ける。

ときに重厚で力強く、ときに高貴さと静謐さを兼ね備えた、神秘的な存在感を示す黒。まだ見ぬ黒の可能性を見出すべく、本展では、塗装ともメッキとも違う、基材のステンレスそのものが黒く発色する唯一無二の技術を誇る日本の表面処理加工の専門企業、アベル株式会社が、オランダのアーティスト、フラー・ファン・ドワードと日本のデザイナー、柳原照弘率いるTeruhiro Yanagihara Studioと協働。黒いステンレス=ABEL BLACKの表現の限界と可能性に挑戦した2つのプロジェクトを紹介する。



Fleur van Dodewaard : SCULPTURE B
2400W x 736H x 2000D mm, 120kg, stainless steel panel t=5mm / 2024

Photo : Ichiro Mishima

Title : SCULPTURE A+B (A LOVE STORY)

Artist : Fleur van Dodewaard

モノリスのような重厚で存在感を持つ大きな黒いステンレス板。複雑な形状に折り曲げた2枚は、絶妙なバランスで互いを支え合いながら存在している。幅広の薄いステンレス板は、見る角度によってそのかたちをさまざまに変え、一方が目の前を真っ暗に覆えば、もう一方は細い線のようになって視界から姿を消す。光がなければ黒という色が判別できないように、視覚的に2つ同時に存在せずとも切り離せない不可分の関係にある。さらに、オブジェ単体のなかに融合する緩やかな曲面、鋭い直角面、まっすぐな平面が放つ黒い光には、永遠に輪廻転生する黒の世界がある。素材の特徴を巧みに紐解きながら、西洋のミニマルアートと日本の書道の思想をリミックス。宙空にさっと一筆書きを施したかのような潔さと、果てしない変化を受け止める寛容さを兼ね備えている。本作品は、〈ABEL BLACK〉が持つ無限の可能性を最大限に引き出しながらうねる壁のように自由に舞い、作品の周りに多様な小空間を創出していく。

プロフィール

1983年オランダ生まれ。アムステルダム大学で演劇を、ハーグ王立芸術学院で美術を専攻後、リートフェルト・アカデミーで美術と写真を学ぶ。木、紙、粘土、テープなど、身近な素材のなかに潜む未知のポテンシャルに目を向け、創作の工程やそこに至る思想の巡り、さらに美術が辿った歴史も絡めながら、彫刻、写真、絵画の新たな表現の可能性に直結する偶発的な構成を探し出す。

<https://www.fleurvandodewaard.com>



Teruhiro Yanagihara Studio : Studies on Black #0 Imperfection Photo : Ichiro Mishima
274W x 334H x 50D mm, 1kg, stainless steel coil t=0.4mm and stainless steel

Title : Studies on Black (#0 Imperfection #1 Unprocessed #2 Concave #3 Convex #4 Bent #5 Struck)
Designer : Teruhiro Yanagihara Studio

黒く発色するステンレス〈ABEL BLACK〉は、どれほどに多様な表現域を持つものなのか。Teruhiro Yanagihara Studio は、素材の本質的価値を見極め、さらにそのポテンシャルを引き出すため多様な実験に取り組む。同じ形状に切り出した ABEL BLACK に、シンプルな折りや曲げの成形加工をプラスすることで、“黒色”のなかにかくに幅広い光と奥行きが生まれるかを検証。さらに、その製作過程のなかで環境条件の違いによってオーロラ状に現れる光の渦にも注目。複数の要素が重ね合わせることで、深みのある黒が実現する様子を明らかにしていく。来場者はそれぞれの実験結果を通して、黒をベースとした色彩の定義、色と光の関係、感性に及ぼす影響を読み解いていく。

プロフィール

2002年に柳原照弘が設立したデザインスタジオ。当初よりプロダクト、空間、ブランドディレクションといったジャンルにとらわれることなく、常に「状況をデザインする」という思考のもとに活動を継続。現在、神戸とアルルを主要な拠点にしつつ、イギリスやオランダにもスタッフを置き、国内外でボーダレスなプロジェクトを手掛けている。

<https://tystudio.fr>

コラボレーションについて

ホテルやブティックの内装から高級車の外装、システムキッチンやエレベータの意匠パネルなど、現在さまざまな分野で活用されているABEL BLACK。しかしながら、美しさと力強さを兼ね備えたABEL BLACKは、素材として以上にその黒い光のなかに、より深いレベルで人を魅了し、感覚を刺激する力があると確信している。惑うことなく未知の領域へと挑戦し、創意あふれる確かな意識へと到達するために、世界で活躍するアーティストやデザイナー、建築家とともに、ABEL BLACKの表現の可能性を追求し続けていく。

素材について

ABEL BLACKは、特殊な加工によりステンレスそのものを発色させることにより、従来の塗装やメッキでは不可能だった、金属のリアルな質感と豊かな色表現の融合を実現した技術だ。溶液内で通電させることで、ステンレスと一体化した酸化皮膜を0.4マイクロメートルに成長。耐熱性、耐候性、耐食性が高く、色剥がれの心配もない素材は、リサイクルも可能という優れたメリットを持つ。鏡面、ヘアライン、バイブレーション、ビーズショットといったステンレスの多様な仕上げに、艶感と深みのある漆黒からシャープなマットブラックまで、黒の幅広い表現を加味することが可能。強くて美しいABEL BLACKは、高級感のある建築部材や車の外装材、什器の意匠などに使われている。

企業情報

アベル株式会社

1965年創業。半世紀以上にわたり、ステンレス表面処理技術に特化した技術開発を重ね、特徴的な発色を持つ素材を提供し続ける。意匠性と機能性、そして品質の高さには定評があり、自ら黒く発色するステンレス「ABEL BLACK」を発表。建築やアート&デザインの分野はもとより、電子&光学機器や自動車など、さまざまな分野の専門家とのコラボレーションを多数手掛けている。

<https://www.abel-s.co.jp/>

掲載に関するお問い合わせ先

HOW INC.

MAIL pressrelease@how-pr.co.jp

TEL 03-5414-6405

読者お問い合わせ先

ABEL BLACK

URL abelblack.com (4月上旬公開予定)

MAIL info@abelblack.com